

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Preterm deliveries in women with uterine myomas: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

子宮筋腫を有する妊婦における早産について

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International Journal of Environmental Research and Public Health

年: 2021 DOI: 10.3390/ijerph18052246

筆頭著者名: 村田 強志

所属UC名: 福島ユニットセンター

目的:

早産(妊娠37週未満の出産)は産科合併症のひとつで、子どもの健康に大きく関係しています。子宮筋腫は子宮に発生する良性腫瘍であり、妊婦の1割程度のみられるという報告があります。今回私たちは子宮筋腫と早産の関連について調べました。

方法:

2011年から2014年のエコチルデータを用い、子宮筋腫の有無と早産の関連について統計解析を行いました。また、早産と密接に関連する、妊娠37週未満の分娩より前に発生する破水(前期破水)、子宮の中の感染症についての関連も調べました。この解析では、妊婦の年齢や体格、喫煙の有無や学歴、収入といった社会的な背景も調整して検討しました。

結果:

86,370人の妊婦が対象となり、5,354人が子宮筋腫を有していました。子宮筋腫を有する妊婦はそうでない妊婦と比較し早産になりやすく(調整オッズ比(以下、aOR)1.37(95%信頼区間(以下、CI) 1.22-1.54))、特に妊娠34週未満の早産になりやすい結果でした(aOR1.61(95%CI 1.27-2.05))。妊娠37週未満の前期破水にもなりやすいという結果でした(aOR1.65(95%CI 1.33-2.04))。しかし、子宮筋腫の有無と子宮の中の感染症は関連がありませんでした。

考察:(研究の限界を含める)

今回の調査で、子宮筋腫を有する妊婦では早産、妊娠37週未満の前期破水の増加と関連があるといった結果が得られました。今回の調査における子宮筋腫の有無は自己回答式の調査票の結果に基づいており、子宮筋腫の大きさや個数が不明であるといった研究の限界点もあります。子宮筋腫を有する早産においては子宮の中の感染がない傾向があり、早産の徴候に気づきにくい可能性があるため、妊娠を管理する際に注意が必要です。

結論:

子宮筋腫を有する妊婦では、早産の発症に留意した妊娠管理が求められます。